

外交史料に見る

日本万国博覧会 への道

外務省外交史料館別館展示室
平成 22 年 7 月 5 日(月)～10 月 29 日(金)

展示史料解説

はじめに

2010年（平成22年）は、アジアで初めての万博である「日本万国博覧会（大阪万博）」が開催されてから40年となります。

日本での万博開催について、大阪万博を総括して発行された『日本万国博覧会 公式記録』は、「万国博に出展参加するだけでなく、これを自国で開催することは、明治、大正、昭和の3代にわたる日本の夢であった」と述べています。

日本が初めて国際的な博覧会に参加するのは幕末のパリ万博（1867年：慶応3年）において、その後、積極的に外国の博覧会へ参加し、国内での博覧会も多数開催しました。しかし、明治から昭和戦前期にかけて計画された日本での万博は、すべて開催に至らず、日本が幕末に万博を知ってから、1970年の「日本万国博覧会」開催まで、100年の歳月を必要としました。

本特別展示では、「日本の夢」としての万博が実現するまでの100年あまりを、外交史料館所蔵史料で振り返ります。

凡例

○本冊子では、複数の国が参加して開催する博覧会については、その性質にかかわらず、原則として「万国博覧会」または「万博」と表記しました。

○年代は初出の際に西暦と和暦を併記しましたが、一部日本に直接関係のない事項では西暦のみ記した部分があります。

○引用文中の〔 〕は引用者による注釈を、…は引用者による省略を意味します。

○外国の国名は地域名のカタカナ表記としましたが、アメリカ、イギリス、フランスのみ便宜上漢字表記（米国、英国、仏国または米、英、仏）とした箇所があります。

目次

I 万国博覧会との出会い	2
II 博覧会の実施と明治の万博計画	7
1. 1873年ウィーン万博と内国勸業博覧会の開催	7
2. 「日本大博覧会」計画と日英博覧会開催	12
III 万博条約と昭和の万博計画	14
1. 万国博覧会に関する条約	14
2. 1940年「日本万国博覧会」計画	16
IV 日本万国博覧会の実現	20
主要万国博覧会関係年表	22
主な参考文献	24



I 万国博覧会との出会い

1851年ロンドン（ハイドパーク）の博覧会は、世界初の万博といわれています。陳列館として全面ガラス張りの「クリスタルパレス」（水晶宮）が建築された同博覧会は、5カ月で600万人以上が訪れるという盛況であったため、英国政府は10年後にも博覧会を予定しました。そして開催された1862年（文久2年）ロンドン博が、日本人と万博が関わる端緒となりました。

ペリー来航（1853年）から1862年までの10年間に、幕府は欧米各国と修好通商条約を結び、英・米・仏・オランダなどの外国公使が日本に駐在していましたが、条約が勅許（天皇の許可）を得ないまま結ばれたため、これに不満を持つ尊皇・攘夷派が活動するなど国情は不安定でした。幕府はこれら反対派の不満をやわらげようと、兵庫などの開港延期を交渉するため、1861年（文久元年）からヨーロッパに使節団を派遣しました（文久遣欧使節団）。この使節団の人々は、英国での交渉の最中、ロンドン万博を視察しました。通訳として使節団に加わった福沢諭吉は、その盛況ぶりについて、「千八百六十二年龍動〔ロンドン〕二博覧場ヲ設ケ、毎日場ニ入ルモノ四五万ニ下ラス」（『西洋事情』）と書き残しています。

また、このロンドン万博には日本の品物も出品されていました。日本文化への関心が高かった初代駐日英国公使オールコック（Rutherford Alcock）が、自ら収集した日本品のロンドン万博への出品を徳川幕府に申し入れたことから、同万博に日本品が陳列されることになりました。

その5年後、1867年（慶応3年）のパリ万博では、初めて日本から公式出品しました。

幕末の動乱のなか、フランスは駐日公使ロッシュ（Léon Roches）の主導によって、幕府を軍事・経済面で支援していました。同公使は、条約勅許をめぐる混乱や長州征討の失敗などによって幕権の衰退が明らかとなっても、幕府支持の態度を変えなかったといわれています。フランス本国での万博開催決定をうけたロッシュは、幕府に参加を勧め、出品とともに幕府の代表者をパリに派遣することを提案しました。そして、15代将軍慶喜の名代として、水戸出身で慶喜の弟にあたる徳川昭武（当時14歳）が派遣されました。なお、この使節団には渋沢篤太夫（後の栄一）も随行しました。

幕府は各藩にもパリ万博への参加を奨励しており、薩摩・佐賀の両藩が出品を決めました。ところが、薩摩藩は、幕府とは無関係の立場で出品したことを現地の新聞を通じて宣伝するとともに、独自の勲章を作成して配付するなど、同藩が独立政府であることをアピールしましたが、幕府側はこれらに対して有効な手を打つことができませんでした。

大政奉還によって徳川の時代が終わるのは、この直後の1867年11月（慶応3年10月）のことでした。





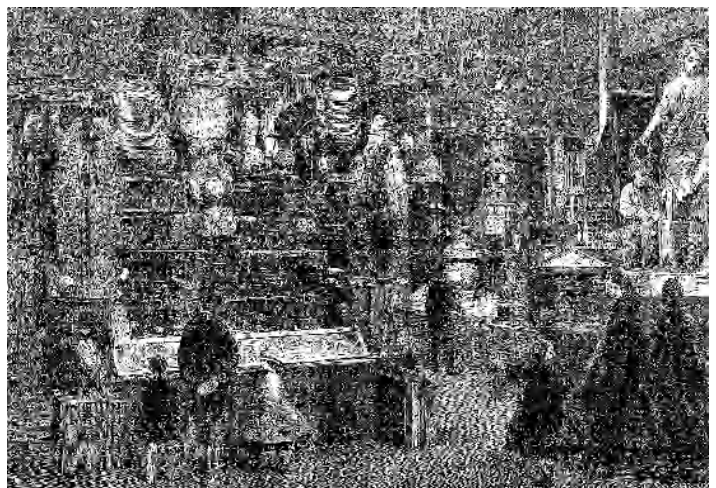
“The Great International Exhibition for 1862
Designed by Capt^d Fowke. R. E.”
(「1862年の国際大観覧会会場 王室技師フォーク設計」)

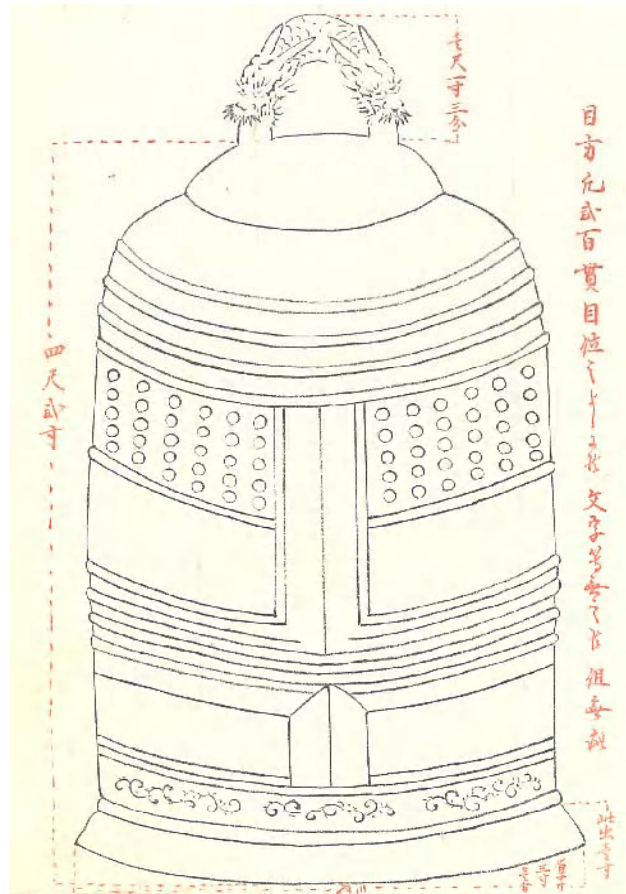
〈展示史料1〉 1862年ロンドン万博への日本品出品申請のため
駐日英国公使オールコックが幕府に提出した展示予定地の図
(『続通信全覧』編年之部より)



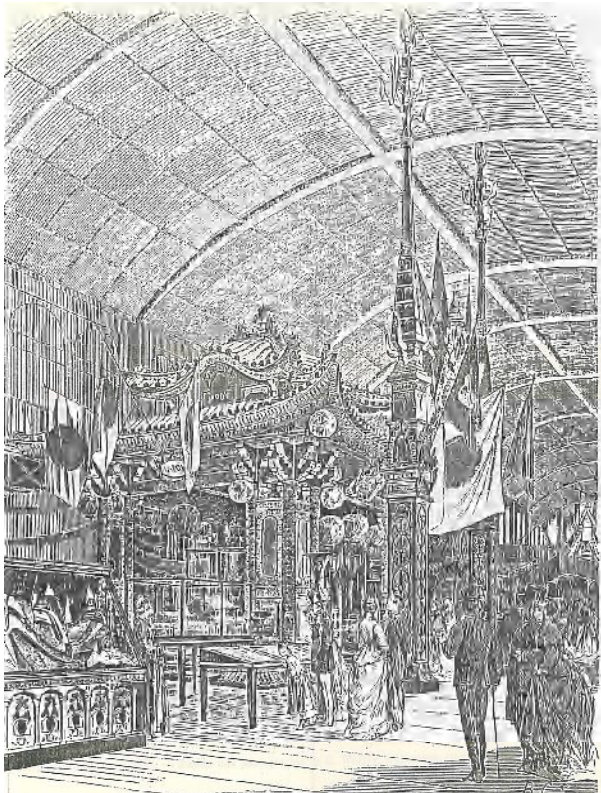
〈参考〉
1862年ロンドン万博を視察する遣欧使節団
【早稲田大学図書館所蔵『The Illustrated London News』より】
『The Illustrated London News』は、1842年から1894年
まで英国で発行された絵入り週刊誌。

〈参考〉
1862年ロンドン万博の日本品陳列所
【早稲田大学図書館所蔵『The Illustrated London News』
より】
日本コーナーにはオールコックが収集した日本品が
陳列された。





〈展示史料2〉パリ万博に出品が予定された釣鐘の図（『続通信全覧』類輯之部より）
 美術品、工芸品、武具、日用品のほか、釣鐘や城郭模型も出品された。

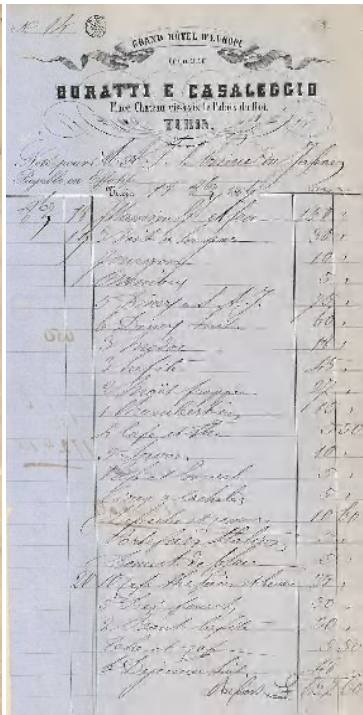
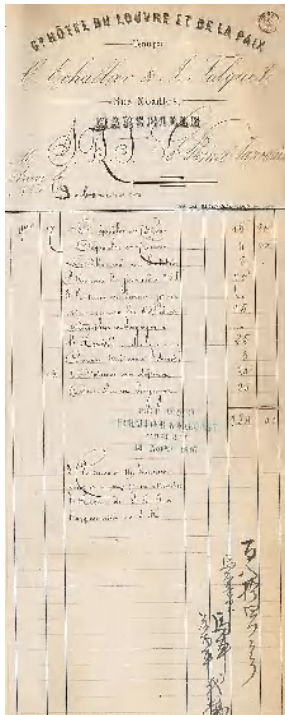


〈参考〉

1867年パリ万博

『L' ILLUSTRATION』に描かれた幕府展示場
 【横浜開港資料館編『イリュストラシオン』日本関係記事集』
 より転載】

「イリュストラシオン (L'ILLUSTRATION)」は、1843年から
 1944年までパリで発行された絵入り週刊誌。



〈展示史料3〉

徳川昭武使節滞欧中の「請取証書」(レシート) 酒食、車代のほか、石けんの料金までも項目に記されている。宛名は「Le Prince Japonais」や「Le Prince du Japon」(日本の王子)となっている。片隅にある(馬)のマークは「御勘定格陸軍附調役」として随行した渋沢篤太夫(栄一)の印と思われる。



〈参考〉

徳川昭武肖像写真
【東京大学史料編纂所所蔵】

〈参考〉

『L' ILLUSTRATION』に描かれた徳川昭武使節
【横浜開港資料館編『イラストレーション』日本関係記事集』より転載】





〈展示史料4〉薩摩藩が作成した勲章の図（『続通信全覧』類輯之部より）
薩摩藩は「薩摩琉球国」と示した独自の勲章を作成して配付するなど、独立国の
ように振る舞った。



〈参考〉
日本の参加を記念して作成されたメダル拓（『続通信全覧』類輯之部より）
片面（右）の中央部に「JAPON」と書かれている。



Ⅱ 博覧会の実施と明治の万博計画

1. 1873年ウィーン万博と内国勸業博覧会の開催

明治維新後、1871年（明治4年）にはロンドンやサンフランシスコでの博覧会がありました。が、国情の安定を優先した政府は、民間に布告して出品者を募るにとどめ、政府としては参加しませんでした。

明治政府として初めて正式に参加したのは、1873年（明治6年）のウィーン万博です。1871年3月（明治4年2月）に駐日オーストリア・ハンガリー代理公使の勧誘を受け、政府は1872年2月（明治5年1月）、博覧会参加を布告しました。佐賀藩がパリ万博に出品した際の事務官長であった佐野常民はこれを知り、万博参加についての上申書を政府に提出しました。そこにはウィーン万博参加の目的の一つとして「（日本での）博覧会ヲ催ス基礎ヲ可整事」が挙げられていました（『奥国博覧会参同記要』）。

佐野は1872年12月（明治5年11月）に設置された博覧会事務局の副総裁に任命され（事務総裁は参議大隈重信）、後に駐オーストリア・ハンガリー弁理公使を兼任し、ウィーン万博開催にあわせて同国に赴任しました。

1873年6月には、欧州歴訪中の岩倉使節団一行がウィーン万博を視察しました。岩倉真視特命全権大使とオーストリア・ハンガリー外務卿との会談では、同外務卿から万博参加に対する謝意が述べられ、これを機会として両国貿易を発展させたいとの強い意向が伝えられました。

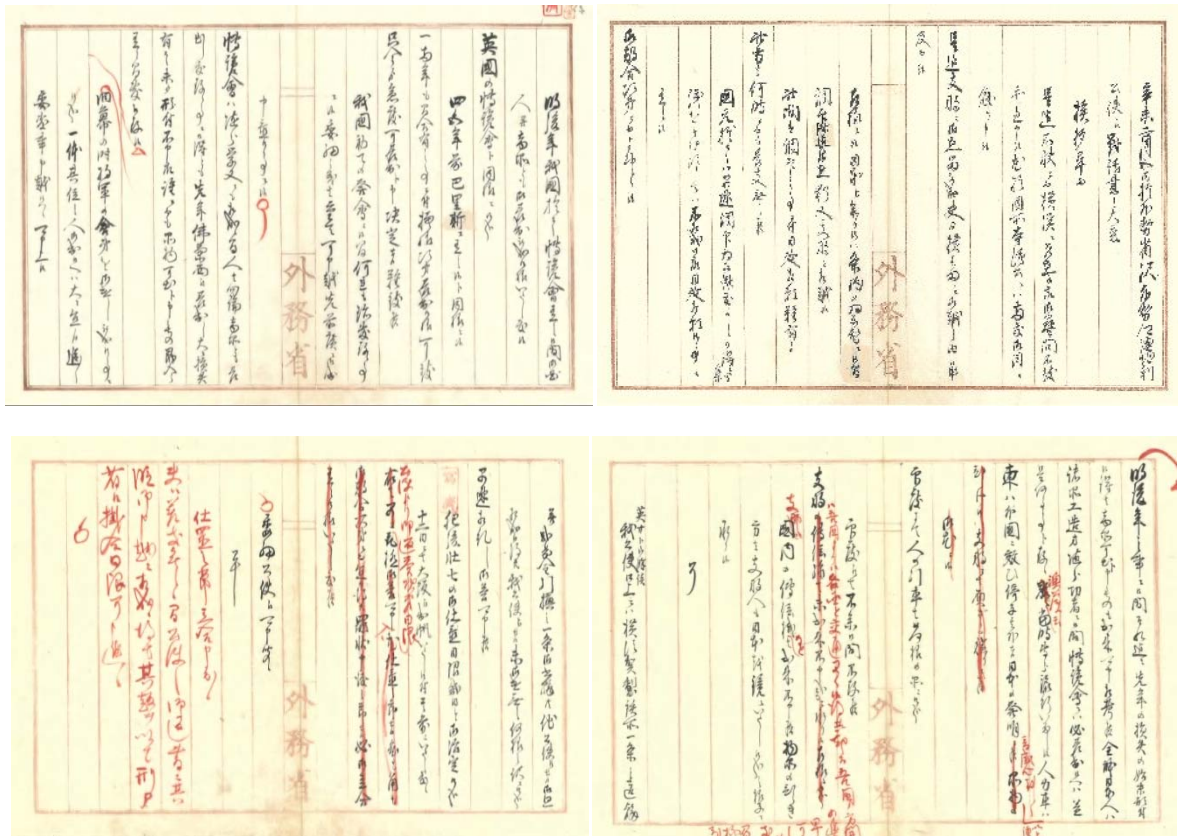
初期の万博をリードしたのは英仏両国でした。万博開催の先駆けとなったイギリスでは、1851年、1862年、1871（～74）年にロンドン万博が開催されましたが、フランス（パリ）でもこれと競い合うように万博が企画され、日本の幕末・明治期にあたる期間だけで5回（1855年、1867年、1878年、1889年、1900年）の万博が開催されました。日本は1867年以降の4回のパリ博全てに参加しました。

1878年（明治11年）のパリ万博にあたっては、フランス大統領より古物（アンティーク）の出品を要請する国書が明治天皇に発出されました。なお、この1878年パリ万博では農業に関する国際会議を同時開催することが宣言され、またちょうど同時期パリで万国郵便連合会議が開かれていました。そして、以後の万博では、国際会議を共に開催することが恒例となりました。

1873年ウィーン万博参加以降、日本は官民ともに外国で開催された多くの博覧会に参加しました。その数は明治時代だけで40近くに及びます。他方、国内でも、5回にわたる「内国勸業博覧会」をはじめ、殖産興業政策の一環として多くの博覧会が開かれました。

内国博覧会開催は、万国博覧会開催への気運を盛り上げるステップにもなりました。例えば西郷従道農商務卿は1885年（明治18年）に、1890年（明治23年）を期した「亜細亞（アジア）大博覧会」開催を建議し、佐野常民も、1890年に予定された第三回内国勸業博覧会をアジア地域での博覧会とするよう提言しました。これらのアイデアは実現に至りませんでした。第三回内国勸業博覧会では外国人を積極的に招致する方針が立てられ、外国人賓客用の日本地図や「旅行免状」が作成されました。





現代語

明治四年二月五日、外務省での沢宣嘉外務卿と（駐日）オーストリア・ハンガリー公使との会談録

公使 再来年、我が国で博覧会を計画しております。日本からも人と商品を出していただけますか。

沢 英国の博覧会（英国で一八七一年より四年連続で開催された万博を指す）と同様の計画ですか。

公使 四く五年前パリで開催されたもの（幕府が参加した一八六七年パリ万博）と同様です。

沢 二年も間があることなので、状況次第では参加するようにしましょう。今から参加を決めることは困難です。

公使 我が国では初めての開催でございまして、めったにない機会ですから、詳細は改めて申し上げることにして、早めにお知らせいたします。旧幕府の時、（パリ万博に）將軍の弟を派遣なさいました。同じくらいの地位の方が参加してくださいれば大いに喜ばしいことです。詳しいことは、通知がありましたら追々申し上げられるでしょう。

沢 博覧会は大いに勉強にもなるでしょう。人はもちろん商品も出したいと思っておりますが、先年フランス（パリ万博）へ参加した際大きな損失を出し、それがいまだに片付いておりません。ですから今のところは（日本）誰であっても参加することは難しいでしょう。再来年のことなので、それまでに先の損失を片付けられれば、出品したいという者も現れると思います。日本人は様々な品物を巧みに作ることができますので、出品すれば必ず利益があると思っております。

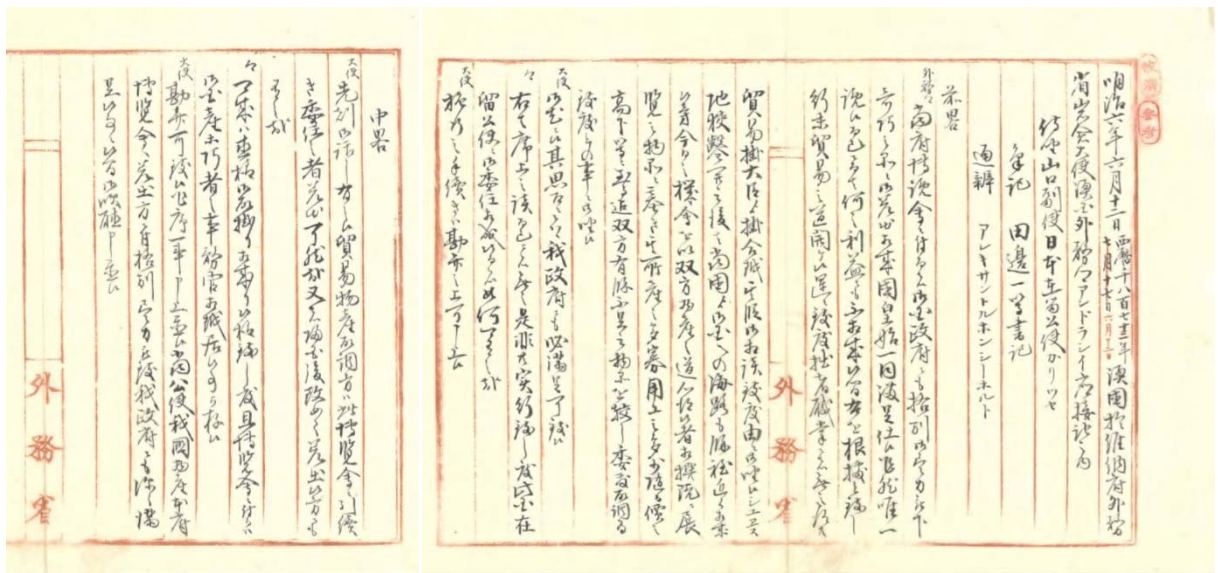
（以下略）

〈展示史料5〉

駐日オーストリア・ハンガリー代理公使と沢宣嘉外務卿との会談録

（明治4年2月5日）

会談の中で、幕末のパリ万博（1867年）の負債が未解消であることが明かされている。



会談部分の大意

外務卿 今回の博覧会につき、貴政府も特に尽力して下さい、出来の良い出品物の数々に皇帝はじめ皆が満足しております。しかしながら、ただ見ただけでは利益にはなりませんので、これをきっかけに貿易の道を開きたいと思えます。スエズ運河の開通によって当国より貴国への海路も随分近くなりましたので、これを機会に両国で貿易に通じた者を選抜し、生産量、需要量、価格に至るまで詳しく調査したいと考えております。

岩倉 ごもつともなことです。我が政府も必ずや同意するでしょう。

外務卿 右はこの場限りの話とせず、是非とも実行したいので、当国駐在の公使に委任なさってはいかがでしょうか。

岩倉 実行の手続きは検討のうえ申し上げます。

中略

岩倉 先ほどのお話にあった貿易品の調査については、本博覧会の担当者が引き継ぐほうがよろしいか、それとも、担当者が帰国後、本国から改めて派遣することでもよろしいか。

外務卿 なるべくすぐに取りかかりたいと思っております。博覧会についても貴国からは優れた事務官が派遣されると存じています。

岩倉 検討します。最後にありますが、本博覧会に我が国産物の出品につき格別の尽力をいただいたことにつき、我が国でも大変満足しておりますことを付言いたします。

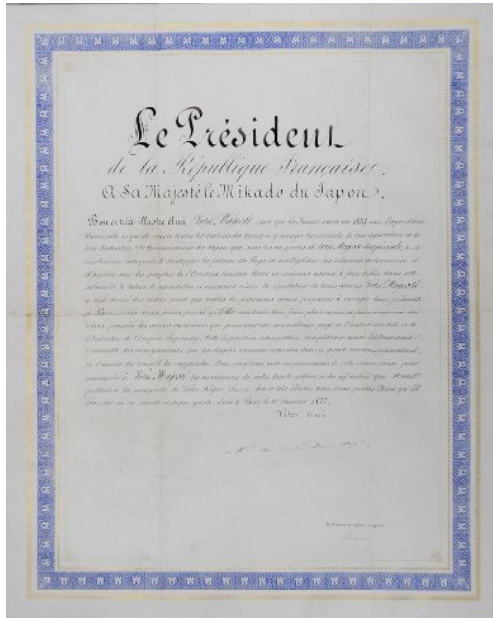
〈展示史料6〉 岩倉具視特命全権大使とオーストリア・ハンガリー外務卿との会談録
(明治6年6月12日)



〈参考〉 1873年ウィーン万博の出品風景【東京国立博物館所蔵】

(左) 金の鯨 (シャチホコ)

(右) 大提灯



〈展示史料7〉パリ万博に古物(アンティーク)の出品を求めるフランス大統領より明治天皇宛国書

和訳(大意)

フランス共和国大統領より日本国天皇陛下に申し上げます。

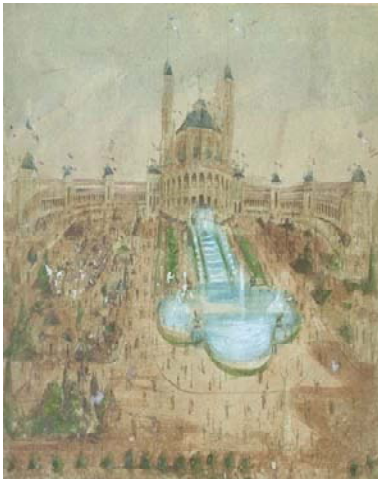
陛下もご存じのとおり、我がフランスは1878年に博覧会を開催し、世界各国より工芸品、農業品を募ることを計画しております。

私は、ヨーロッパ各国との貿易や親睦に努めておられる貴国が、我が博覧会に参加され、貴国の職人の技能を披露し、貴国品の素晴らしさを世界に知らしめることをお望みだと確信します。

陛下はすでに各県に命じて各地の産物をパリに送る準備をなさっていると思います。しかしそれに加えて私が考えるに、これら今日の産物だけでなく、日本の工芸史を彩る過去の器物から良い物を厳選して出品なさるならば、諸国民の関心を集め、貴国品の購入意欲を高めるでしょう。

陛下の治世がさらに繁栄することを心よりお祈り申し上げます。

1877年1月10日 パリにて マクマオン

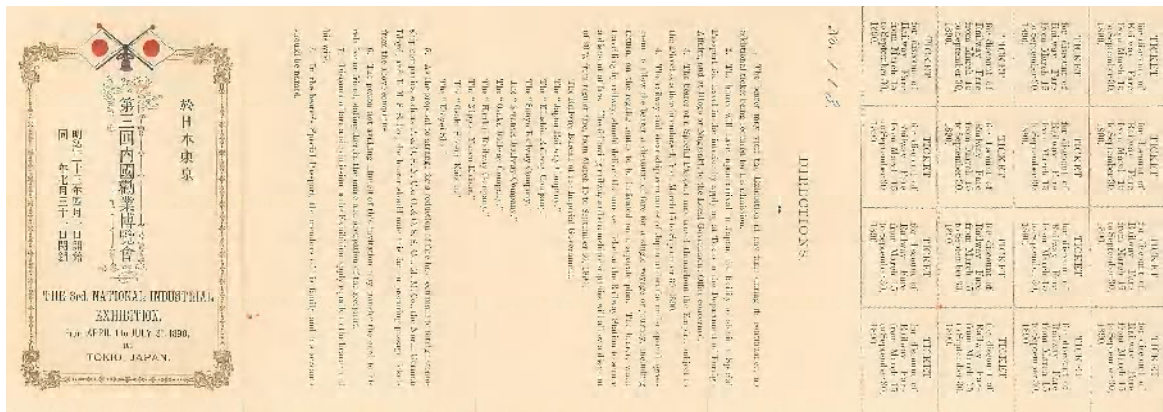


〈参考〉 1878年パリ万博会場

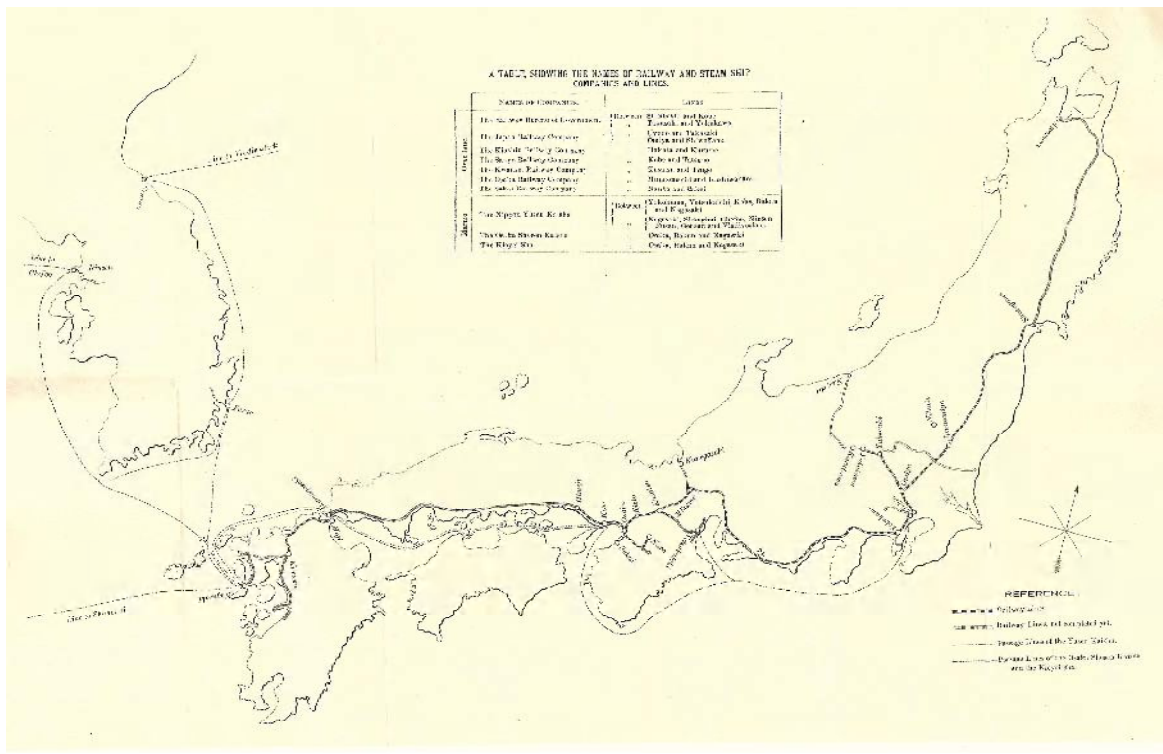
(左) 全景図

(右) 日本展示館

【東京大学史料編纂所寄託 中野健明氏関係史料より】



第三回内国勸業博覧會開辦勸諭 位階 菅原清通様敬啟
 明治二十三年四月廿一日 同年七月三十一日 第三回内国勸業博覧會ヲ東京上野公園ニ開設スルニ候テ
 明治二十三年三月二日
 敬啟者、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 一、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 二、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 三、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 四、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 五、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 六、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 七、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、
 八、貴國政府ニ於テ、開入ノ勸諭ヲ東ニ種々開會同會長官ニ入
 事ハトシテ、



〈展示史料8〉 第三回内国勸業博覧會 外国人向け招待状と付属地図



2. 「日本大博覧会」計画と日英博覧会開催

このように博覧会参加・開催の経験が積まれるなか、日露戦争（1904～05）の戦勝を記念した日本での万博開催が建議されたのをきっかけとして、1907年（明治40年）、政府は1912年（明治45年）4月から10月までを予定して、東京での「日本大博覧会」開催を決定しました。この計画は、世界各国の参加出品を求め、日本の産業の発達を世界に示すことを目指したもので、「万国博覧会」の名称は用いられていませんが、実質的な万博として予定されていました。決定後、外務省では直ちに各国大公使及び領事を通じ、この博覧会の計画と趣旨を諸国政府に通知しました。

米国ではこの通知にいち早く反応があり、セオドア・ルーズベルト（Theodore Roosevelt）大統領は、正式な参加招請を待たず、議会に対する教書の中で「日本大博覧会」に賛同しました。教書への記載については、大博覧会役員かねこけんたろうの金子堅太郎（1900年パリ万博参加の当初、事務官長を務めた）が、懇意のルーズベルトに書状を送って要請したという事実がありました。この「大博覧会」計画は、米国議会にも好意的に受け止められ、1908年（明治41年）5月、同博覧会への賛同法案が150万ドルの出資金とともに議会で可決されました。また、米国以外にもいくつかの国が賛意を示していました。

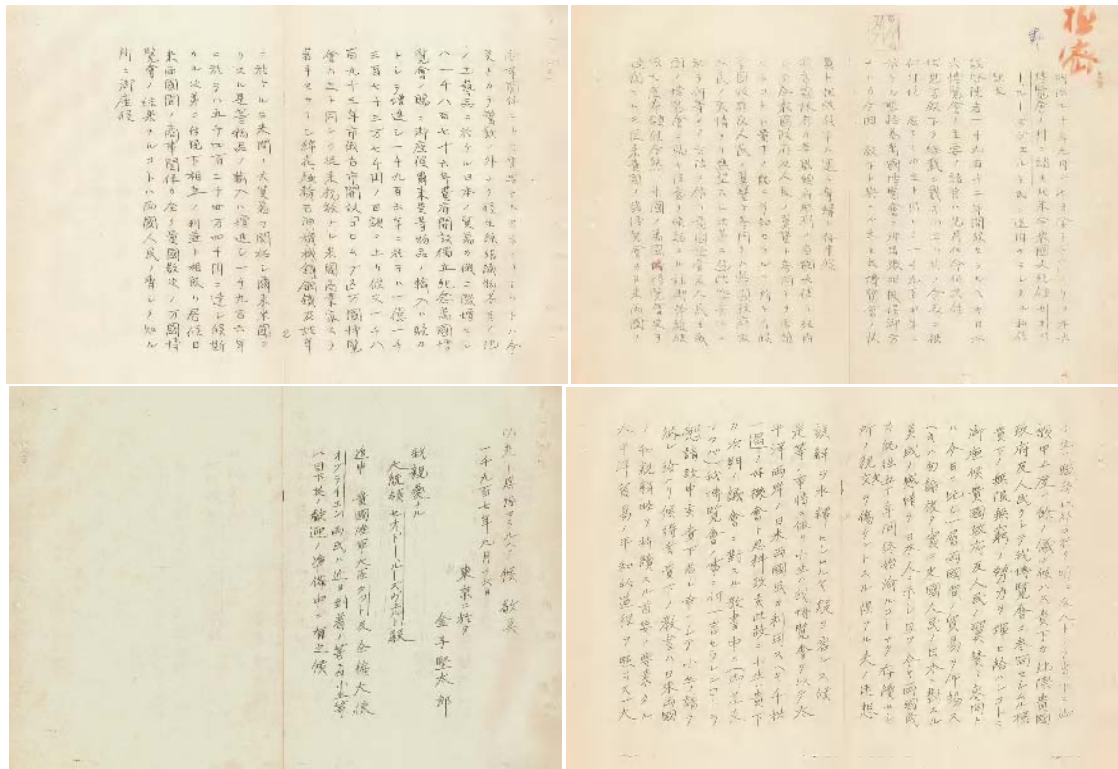
しかし、この計画はその後、予定より経費が増大して設営準備も遅れたため、5年間延期されることとなりました（さらにその後中止）。

同じ頃、ロンドンでは日英両国民の親善と両国貿易の発展を目的とした博覧会の計画が進められていました。これは、英仏協商をアピールする「英仏博覧会」（1908年）に続く企画として、同博覧会の委員長より日本側に提案されたものでした。

この提案があった当時の駐英大使・小村寿太郎こむらじゅたろうは、日英同盟（1902年調印、1905年改定）強化の観点から、これに応じるのが適当との意見を本省に送りました。その後、小村が外相として入閣した第二次桂太郎かつらたろう内閣は、日英同盟を「帝国外交ノ骨髄」と表現してその重要性を確認し、日英間の博覧会の開催を決定しました。そして、英国側はコンノート親王（Prince Arthur of Connaught）が、日本側は伏見宮貞愛親王ふしみのみやさだなるが名誉総裁にそれぞれ就任して、1910年（明治43年）5月、ロンドンで「日英博覧会」が開催されました。

「日英博覧会」はおおむね好評のうちに終了しました。しかし同博覧会は、「日英博覧会」と銘打ちながら、英国政府との共催ではなく一民間人との契約に基づいて開催されたものであり、日本政府だけが資金を供出していた点が批判を招きました。小村外相はこれに対し、1911年（明治44年）の第27回帝国議会で「日英博覧会は…遺憾なくその目的を遂げまして…其日英貿易将来の発展に貢献するところ大なるべきことは、本大臣の信じて疑はぬところでございます」（1月24日の外交演説）と述べてその成果を誇りました。なお、日英同盟は1911年7月11日に更新され（第三回日英同盟協約）、その後1922年（大正11年）まで継続しました。





〈展示史料 9〉

「日本大博覧会」への協力を求める金子堅太郎より米国大統領宛書簡（訳文）



〈展示史料 10〉 1910年日英博覧会 パンフレット



Ⅲ 万博条約と昭和の万博計画

1. 万国博覧会に関する条約

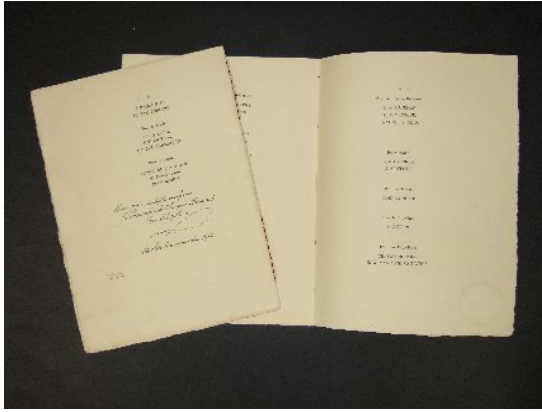
19世紀末から20世紀初頭にかけて、多くの国が産業振興や貿易促進の手段として博覧会を開催したため、その開催数は年々増えました。しかし、国際的な博覧会の乱立によって主催国や参加者の負担が重くなったり、特定地域や個人の利益のために開催するケースが見られたりして、しばしば問題となったため、博覧会の開催数を制限する必要が説かれました。

このような要請は、1907～08年に欧州諸国の国内委員会代表者による会議となり、1912年（大正元年）ベルリンにおける国際会議で、政府レベルの検討が行われました。ベルリン会議の結果、「国際博覧会に関する条約」が採択され、欧州各国に日本を加えた15カ国が調印しました（10月26日）。この条約には、万博の性格を規定し、開催数を抑制するための様々な項目が盛り込まれましたが、1914年（大正3年）の第一次世界大戦勃発により、^{ひじょう}批准には至りませんでした。

第一次世界大戦後、1928年（昭和3年）になってパリで国際会議が開かれ、万博開催のルールにつき、戦後の状況変化をふまえた議論が行われました。この会議の結果、同年11月22日、「国際博覧会に関する条約」（「国際博覧会条約」または博覧会国際事務局 Bureau International des Expositions の頭文字から「B I E条約」ともいいます）が採択されました。日本を含む31カ国がこの条約に調印しましたが、日本は批准せず非加盟国となっていました。そのため、1940年（昭和15年）の開催に向けて東京万博が計画されたとき、手続上の困難に遭遇することとなりました（次の項目を参照）。

なお、平成22年現在も万博は、幾度かの改正を経たこの条約に基づいて開催されています。

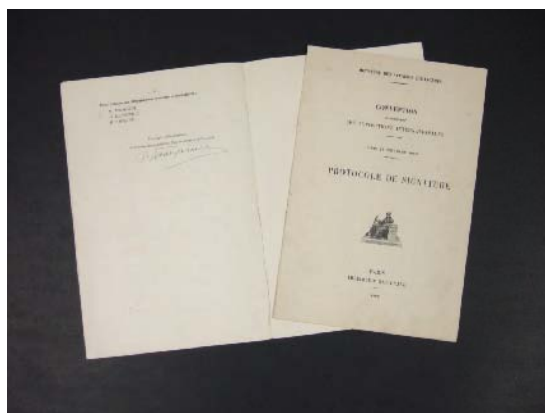




〈展示史料 11〉 万国博覧会に関するベルリン条約



〈展示史料 12〉 博覧会に関するベルリン会議に出席した各国代表
ベルリン会議の記録冊子に収録された記念写真。



〈展示史料 13〉 「国際博覧会ニ関スル条約（謄本）」
1928年（昭和3年）11月22日調印。博覧会国際事務局の略称をとって「BIE条約」ともいう。



2. 1940年「日本万国博覧会」計画

明治期の「日本大博覧会」計画以降、日本ではしばらく万博開催が本格的に検討されませんでした。しかし、1929年（昭和4年）民間から開催の建議があり、東京府及び神奈川県知事、東京・横浜市長、商工会議所等の賛同を得て、1934年（昭和9年）設立の「日本万国博覧会協会」によって準備が進められました。企画過程での調整の結果、この万博は、「皇紀（紀元）二千六百年」奉祝行事として1940年（昭和15年）に開催することとなりました（「皇紀」とは、初代神武天皇の即位年とされる西暦紀元前660年を元年として数えたものです）。

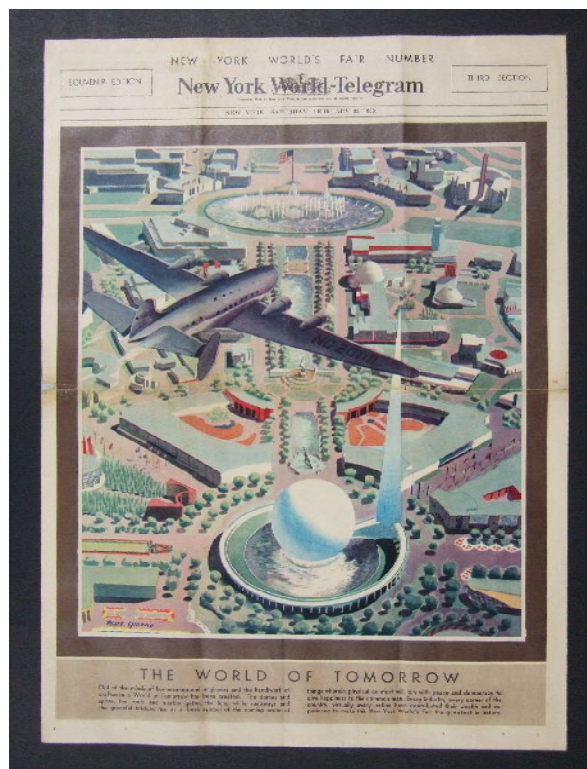
この計画では、国際博覧会条約との兼ね合いが問題となりました。同条約発効以来最初の万博であるブリュッセル万博（1935年）に引き続き、1937年（昭和12年）にはパリでの万博開催が決定しており、次回もすでに米国が1939年（昭和14年）ニューヨークでの開催を博覧会事務局に申請していました。条約上、万国博覧会（テーマを限定しない「一般博覧会」）は先に開催された万博から2年を経過していないと開催できないことになっており、日本が予定する1940年の開催は困難でした（なお、1941年にはイタリアが開催の意欲を示していました）。日本が条約に加盟していなかったこともあって、日本側には博覧会国際事務局が日本の申請を認めないとの観測が立ちましたが、在仏大使館を通じた交渉の結果、同事務局からは、「東西文化の融合」をテーマとする「特殊博覧会」（テーマや規模が限定される代わりに年限規定が緩やか）として開催することが提案されました。

1938年3月、委任統治領などを含めた70カ国に招請状が発出されるとともに、在外公館を通じた誘致の働きかけが行われ、欧州、北米、中南米、アジア大洋州の各方面に、招請のための使節団が派遣されました。これに対し、ドイツ、イタリアなど当時の日本の友好国のほか、オーストラリア、ブラジルなど太平洋や中南米の国々が出品に前向きな姿勢を示していました。また、この計画の財源は大部分を入場券の前売り収入によって充てることとなっていたため、1938年（昭和13年）1月より富籤（宝くじ）付き入場券の販売が開始されました。

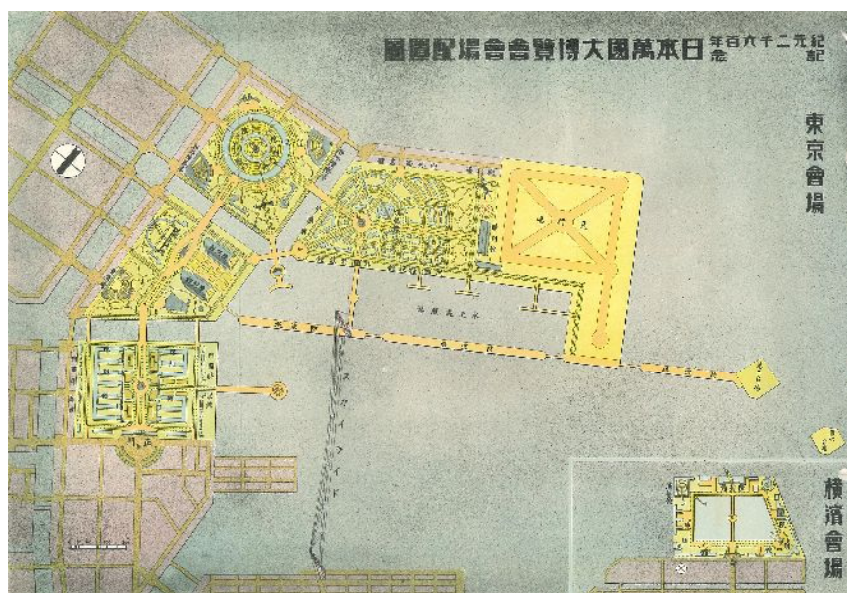
しかし、1937年7月以来の日中戦争の長期化に伴い、1938年半ば頃から、時局に配慮しての万博中止論が高まり、同年7月15日、万博開催の「延期」が閣議決定されました。

なお、万博と同じく「皇紀二千六百年」奉祝行事として同年に計画された東京オリンピック招致についても、時局の変化に伴って内外からの批判を受け、返上を余儀なくされました。

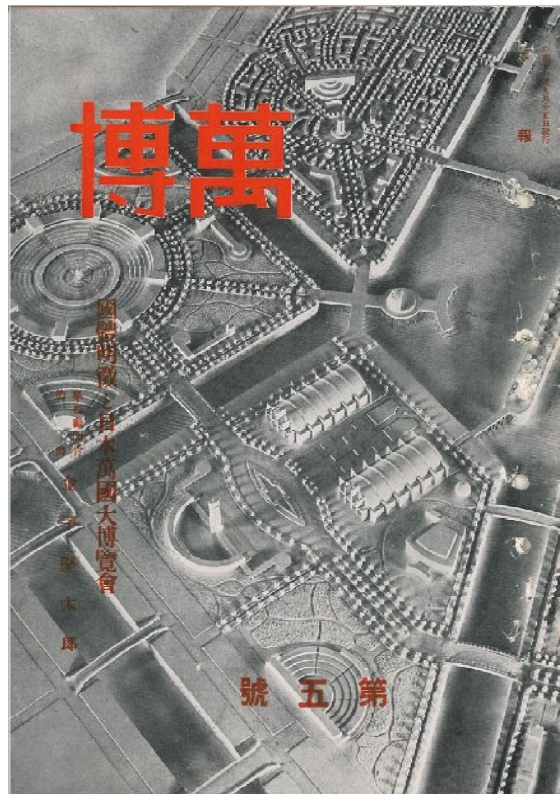




〈展示史料 14〉
 「ニューヨーク・ワールド・テレグラム」の1939年ニューヨーク万博特集号



〈展示史料 15〉 1940年日本万国博覧会「会場配置図」
 「幻の万博」として知られる1940年の万博計画の会場企画図。現在の月島～晴海一帯と豊洲の埋立地がメイン会場に予定された。なお、勝どき橋はこの計画の際に架設されたもの。



〈展示史料 16〉 『萬博』(第五号)

日本万国博覧会協会の機関誌。1936年(昭和11年)から1941年(昭和16年)まで50号以上を発行。

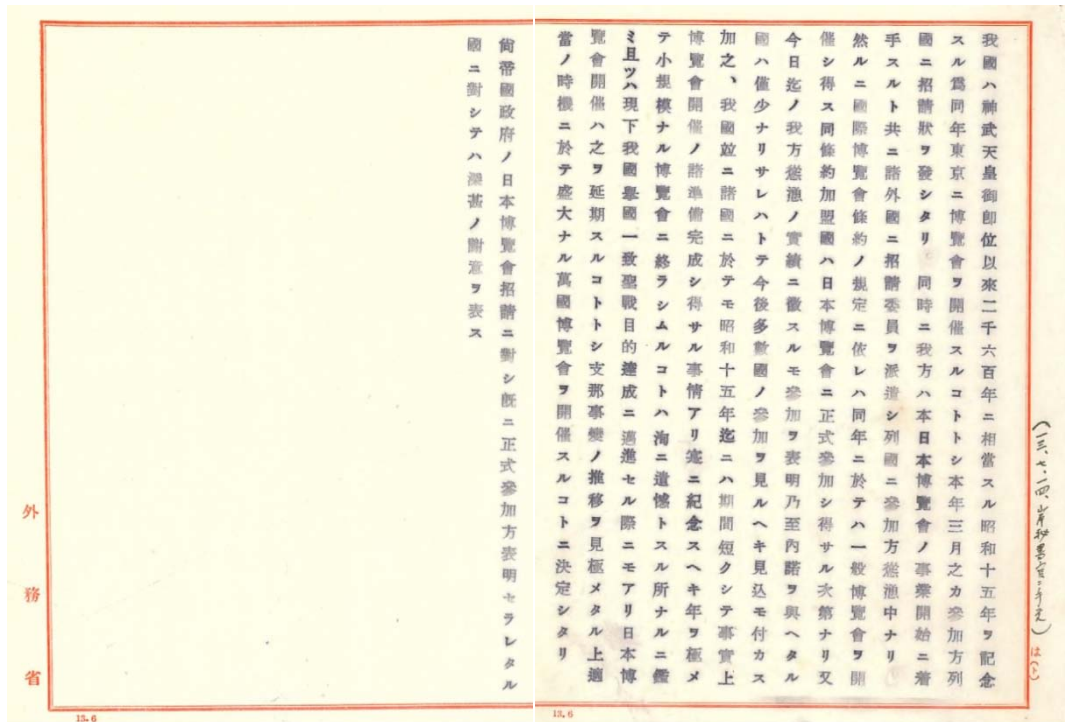


〈参考〉

『紀元二千六百年記念 日本万国博覧会概要』

(右) 表紙

(左) 会場鳥瞰図



〈展示史料 17〉 1940年日本万国博覧会計画 延期声明文 (案)



〈参考〉 1940年日本万国博覧会 入場券
【『日本万国博覧会 公式記録』より】



IV 日本万国博覧会の実現

第二次世界大戦終了（1945年）後も、日本は海外で開催された博覧会に積極的に参加しました（1958年ブリュッセル、1962年シアトル、1964年ニューヨーク、1967年モントリオールなど）。この間、サンフランシスコ平和条約締結（1951年）や国連加盟（1956年）があり、国内の経済発展と相まって、日本での万博開催の条件が整っていきました。さらに、1964年（昭和39年）東京オリンピックの開催は、万博開催の気運を再度盛り上げることになりました。

1964年2月、国会において、かつて商工官僚として1940年万博計画を主導した議員により、万国博覧会開催が提案されました。これに呼応するように、大阪からは万博誘致の要望書が政府に提出されました。それらの動きを受け、政府も万博開催の検討を始め、同年8月には「1970年の万博開催を積極的に推進する」ことが閣議決定されました。

会場については、当初東京や千葉も候補となりましたが、1964年7月に「大阪を中心とする近畿地方」での開催を推進する委員会が発足するなど、近畿地方での誘致に向けた活動が本格化したため、候補地は早々に近畿に絞られました。その後調整の結果、会場は大阪の千里丘^{せんりきゅうりょう}陵に決定しました（1965年4月）。

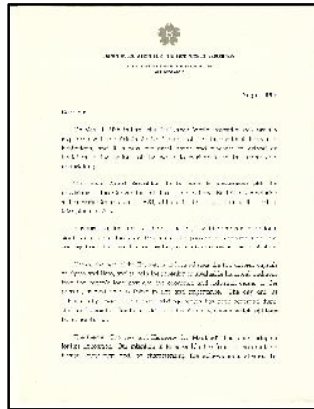
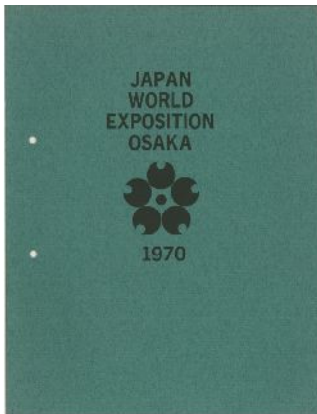
万博開催のためには、戦前から非加盟のままとなっていた、国際博覧会条約（1928年調印）を批准する必要がありました。万博開催の方針が固まったことで、1964年12月28日、条約は衆参両院の全会一致で批准され、翌1965年（昭和40年）2月8日、日本は条約加盟国となりました。

博覧会国際事務局（BIE）の規定では、開催5年前より正式の外交ルートによる申請ができたため、1965年4月22日、駐仏大使を通じて同事務局に申請書が提出され、翌月のBIE理事会において受理されました。

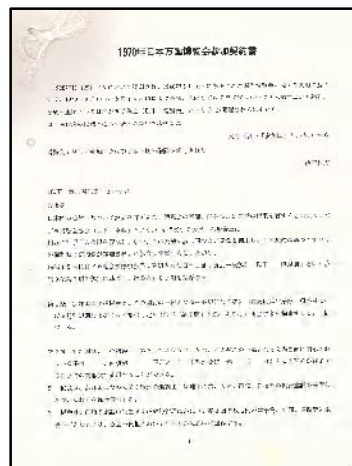
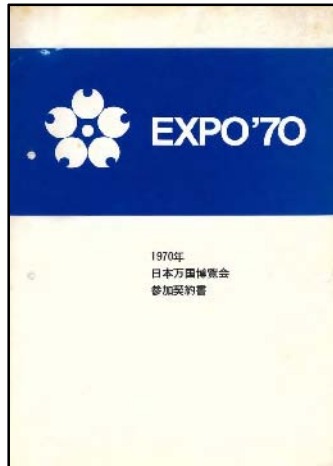
「日本万国博覧会」の招請状は、1966年（昭和41年）9月より133カ国、24国際機構に発出され、閣僚や万博協会役員、博覧会政府代表が諸外国を訪問して参加勧奨を行いました。その結果、日本以外に76カ国の参加を得ることができました。

「人類の進歩と調和」をテーマとする「日本万国博覧会」（大阪万博）は、1970年（昭和45年）3月14日から9月13日まで開催されました。入場者総数は過去最高の6,400万人以上を記録しました。なお、大阪万博では、戦前の1940年に計画され、無期限延期となっていた「日本万国博覧会」で前売りされた入場券を使用することもできました（実際に数千枚が使用されたといわれています）。





〈展示史料 18〉 1970 年日本万国博覧会 招請用資料



〈展示史料 19〉 1970 年日本万国博覧会 参加契約書
 契約書は日本語・英語・仏語の三種類が作成された。



〈展示史料 20〉 1970 年日本万国博覧会 要人記念アルバム

大阪万博に訪れた各国要人のスナップ写真を国別にアルバムにまとめたもの。外交史料館では 70 カ国（国際機関含む）分のアルバムを所蔵。

一九〇五（明治三八）	リエージュ	民間参加	一九〇五 第二回日英同盟協約締結
一九〇六（明治三九）	ミラノ	政府参加	
一九〇九（明治四二）	アラスカ・ユーコン太平洋博覧会	政府、民間参加	
一九一〇（明治四三）		「日英博覧会」開催	一九一一 第三回日英同盟協約締結
一九二二（大正元）	国際博覧会に関するベルリン会議	会議参加、条約調印	
		「日本大博覧会」計画（中止）	
一九一五（大正四）	サンフランシスコ（パナマ運河開通記念）	政府、民間参加	一九一四～八 第一次世界大戦
一九二二（大正一一）	リオデジャネイロ（ブラジル独立百周年記念）	民間参加	
一九二八（昭和三）	国際博覧会に関するパリ会議	国際博覧会条約調印（批准せず）	一九二一～二 ワシントン会議
一九二九（昭和四）	バルセロナ	民間参加	一九三一 満州事変
一九三〇（昭和五）	アントワープ（ベルギー独立百周年記念）	民間参加	
一九三三（昭和八）	シカゴ（「進歩の世紀」）	政府、民間参加	一九三三 日本の国際連盟脱退
一九三五（昭和一〇）	ブリュッセル（「民族を通じての平和」）	不参加	
一九三七（昭和一二）	パリ（「現代生活の中の芸術と技術」）	政府、民間参加	一九三七 盧溝橋事件（日中戦争開始）
一九三九（昭和一四）	ニューヨーク（「明日の世界と建設」）	政府、民間参加	一九三九 日米通商航海条約廃棄通告
一九四〇（昭和一五）	サンフランシスコ（ゴールデンゲート完成記念）	不参加	
		「日本万国博覧会」計画（延期）	一九四一～五 太平洋戦争
一九五八（昭和二三）	ブリュッセル（「科学文明とヒューマニズム」）	政府、民間参加	一九五一 サンフランシスコ平和条約調印
一九六二（昭和三七）	シアトル（「宇宙時代の人類」）	政府、民間参加	一九六〇 日米安全保障条約改定
一九六四（昭和三九）	ニューヨーク（「理解を通じての平和」）	BIE非公認。政府、民間参加	一九六四 東京オリンピック開催
一九六五（昭和四〇）		国際博覧会条約を批准	
一九六七（昭和四二）	モントリオール（「人間とその世界」）	政府、民間参加	
一九七〇（昭和四五）	大阪（「人類の進歩と調和」）	主催	



主要万国博覧会関係年表



(※大阪万博まで。山本光雄『日本博覧会史』、平野繁臣『国際博覧会歴史事典』その他より作成)

年	万博開催地(テーマ)・万博関係事項	日本の動き	一般事項
一八五一(嘉永四)	ロンドン		一八五三 ペリー、浦賀に来航
一八五三(嘉永六)	ニューヨーク		一八五四 日米和親条約調印
一八五五(安政二)	パリ		一八五八 安政五力国条約(日米修好通商条約等)調印
一八六二(文久二)	ロンドン	遣欧使節団が視察	一八六六 幕府、海外渡航を許可
一八六七(慶応三)	パリ	幕府、薩摩・佐賀藩が出品	一八六七 大政奉還
一八七三(明治六)	ウィーン	明治政府初参加	一八七一〜三 岩倉遣欧使節団の派遣
一八七五(明治八)	メルボルン	民間参加	
一八七六(明治九)	フィラデルフィア(米国独立百周年記念)	政府参加	
一八七七(明治一〇)		第一回国勸業博覧会開催	
一八七八(明治一一)	パリ	政府、民間参加	
一八七九(明治一二)	シドニー	民間参加	
一八八〇(明治一三)	メルボルン	民間参加	
一八八八(明治二一)	バルセロナ	政府、民間参加	
一八八九(明治二二)	パリ	政府、民間参加	
一八九〇(明治二三)		第三回国勸業博覧会開催	一八九〇 第一回帝国議会
一八九三(明治二六)	シカゴ(コロンブス新大陸発見四百周年記念)	政府、民間参加	一八九四〜五 日清戦争
一八九五(明治二八)		第四回国勸業博覧会開催	
一八九七(明治三〇)	ブリュッセル	不参加	
一九〇〇(明治三三)	パリ	政府、民間参加	
一九〇一(明治三四)	グラスゴー	民間参加	
一九〇三(明治三六)		第五回国勸業博覧会開催	一九〇二 第一回日英同盟協約締結
一九〇四(明治三七)	セントルイス(ルイジアナ買収百年記念)	政府、民間参加	一九〇四〜五 日露戦争

主な参考文献

1. 当館所蔵記録

外務省記録

- 「旧政府ノ時仏国巴里府ニ於テ開設セル万国博覧会関係一件」(請求番号 3.15.2.92)
 - 「旧政府ノ時仏国巴里府ニ於テ開設セル万国博覧会関係一件 請取証書類」(請求番号 3.15.2.92-1)
 - 「奥国維也納開設万国博覧会ニ帝国政府参同一件」(3.15.2.3)
 - 「内国博覧会関係雑件」(3.15.1.2)
 - 「仏蘭西国巴里開設万国博覧会ニ帝国政府参同一件」(3.15.2.7)
 - 「東京ニ於テ第三回内国勸業博覧会開設一件」(3.15.1.8)
 - 「大阪ニ於テ第五回内国勸業博覧会開設一件」(3.15.1.10)
 - 「日本大博覧会開設一件」(3.15.1.11)
 - 「英国倫敦ニ於ケル日英博覧会開設一件」(3.15.2.68)
 - 「博覧会問題協定万国会議一件」(2.9.5.36)
 - 「博覧会問題ニ関スル国際会議関係一件」(B.10.6.0.12)
 - 「本邦博覧会関係雑件 日本万国博覧会(一九四〇年)」(E.2.8.0.3-3)
 - 「日本万国博覧会(1970年於大阪) 外国出展」(E'.1.2.2.7-6)
- 『続通信全覧』
- 「英国往復書翰 九」(編年之部)
 - 「徳川民部大輔欧行一件 附仏国博覧会」(類輯之部 修好門)

2. 万博公式記録

『日本万国博覧会 公式記録』

3. 著書、研究書

- 山本光雄『日本博覧会史』(理想社 1970年)
- 吉田光邦『改訂版 万国博覧会』(日本放送出版協会 1985年)
- 吉見俊哉『博覧会の政治学』(中央公論社 1992年)
- 古川隆久『皇紀・万博・オリンピック』(中央公論社 1998年)
- 平野繁臣『国際博覧会歴史事典』(内山工房 1999年)
- 伊藤真実子『明治日本と万国博覧会』(吉川弘文館 2008年)

4. ウェブサイト

- <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/hakurankai.html> (外務省 HP 「2005年日本国際博覧会」)
- <http://www.jacar.go.jp/> (アジア歴史資料センター)
- <http://kindai.ndl.go.jp/index.html> (国立国会図書館近代デジタルライブラリ)

○展示及び本冊子の作成にあたり、以下の機関より画像の提供、使用許諾を受けました。
末尾になりましたが、感謝申し上げます。

東京国立博物館

東京大学史料編纂所

東京大学史料編纂所寄託 中野健明氏関係史料

横浜開港資料館

早稲田大学図書館

岡本太郎記念館

特別展示「外交史料に見る日本万国博覧会への道」

外務省外交史料館

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-5-3

電話：03-3585-4511

URL：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/>